

萩島哲先生を悼む

趙 世晨 九州大学大学院人間環境学研究院長

坂井 猛 九州大学大学院 教授／福岡アジア都市研究所 理事長

萩島哲先生は、入院加療中のところ 2026 年 3 月 19 日に逝去されました。享年 84 歳でした。

萩島先生は、1965 年に九州大学工学部建築学科を卒業後、同大学院工学研究科博士課程を単位修得退学ののち、九州大学において講師、助教授を経て、光吉健次研究室を引き継ぎ、九州大学大学院教授として 2005 年まで在任され、高邁な人格と真摯な態度、強い責任感と慈愛に満ちた教育姿勢によって、32 名の博士をはじめとする数多くの後進を育てられました。この間、日本建築学会で、都市計画委員会委員長、理事、九州支部長、評議員、常議員を務め、日本都市計画学会で、理事、九州支部長、評議員、九州支部顧問を務められました。

学術研究において、主に景観設計学、国際都市比較学、土地利用計画学の発展に尽力され、多くの功績を残されました。1980 年代まで取り組まれた都市計画における予測手法に関する基礎的研究により日本建築学会霞が関ビル記念賞、土地利用計画の手法開発に関する一連の研究により日本建築学会賞（論文）を受賞されました。

萩島先生は、国内外の研究者の繋がりを大事にされました。先生のもとで学位を取得した研究者を主とした日韓都市比較研究、都市景観の海外調査、コンパクトシティ研究を精力的に進められ、アジア諸都市における土地利用計画および環境管理政策立案の支援に尽力されました。アジア都市研究会 AURG を発足して国際シンポジウムを定期開催するなど国際的研究活動の推進に貢献し、日本都市計画学会国際交流賞を受賞されました。

1990 年代より萩島先生ご自身は、もっぱら絵画と景観関連の調査研究を手掛け、アーバンデザイン、景観設計、都市文化を論じる教育研究に従事されました。景観分野は依然として途上であるとの認識のもと、時代の流れに応じて発展させていかなければならない教育研究分野であると確信されていたことでした。その成果は、著書『風景画と都市景観』『都市風景画を読む』『広重の浮世絵風景画と景観デザイン』『名所空間の発見 地方の名所図録図会を読む』『バロック期の都市風景画を読む』『カナレットの景観デザイン』『複眼の景観』にとりまとめ、一般市民の啓蒙にも尽力されました。風景絵画を基にした「絵になる景観」研究に関する一連の著作により日本都市計画学会石川賞を受賞されています。

学内では、施設委員会委員、新キャンパス計画専門委員会委員として九州大学新キャンパス基本計画案の作成に尽力され、マスターアーキテクト委員会委員、新キャンパス計画推進室併任室員をはじめとする各種委員会の委員として、学部



及び大学の研究及び運営に貢献されました。終始一貫して学術の研究と学生の教育に専念され、学術研究において顕著な業績をあげるとともに、教育面においても学生の教育指導に情熱を注ぎ、都市計画、都市設計、景観設計及び都市・建築設計演習などを担当されました。

近親者で葬儀をすまされてから、愛娘の萩島理先生（九州大学副学長）より訃報をいただきました。教え子をはじめ、萩島哲先生の逝去を悼む多くの方々と共に、謹んで先生のご冥福をお祈り致します。

●略歴

1942 年生
1965 年 九州大学工学部建築学科卒業
1973 年 九州大学大学院工学研究科博士課程単位修得退学
1974 年 九州大学講師
1979 年 九州大学助教授
1990 年 日本建築学会霞が関ビル記念賞受賞
1991 年 九州大学教授
1992-1998 年 日本都市計画学会評議員
1994-1998 年 日本都市計画学会国際委員会委員
1997 年 日本建築学会賞（論文）受賞
1998-2004 年 アジア都市研究会（AURG）代表
1999-2000 年 日本都市計画学会理事・九州支部長
2000 年 九州大学大学院人間環境学研究院教授
2000-2001 年 日本都市計画学会功労賞等選考委員会委員
2001-2003 年 日本建築学会九州支部長
2002 年 全国建築審査会協議会表彰
2005 年 九州大学名誉教授
2006 年 日本都市計画学会国際交流賞受賞
2007 年 日本都市計画学会石川賞受賞